

大源太川北沢本谷報告

日時 6月11日

天気 晴れ

メンバー CL上茂(記) 平野直 平野良 小原

タイム 登山口 6:30～出合 7:00～三俣 9:30～登山道 12:20～大源太山 12:40～出合 14:10～登山口 14:40

例年ならまだ残雪がある谷川の沢も今年は少ないという情報なので、様子見も兼ね、大源太川はチャンスを逃してまだ行ったことがなかったということもあり計画してみた。

千葉を金曜日の 20:30 頃出発し、大源太山登山口を目指しながら仮眠場所を探し、トイレのある静かな良い場所を見つけ、小宴会を行い、多少時間をオーバーしたが、就寝。

朝はっと目覚めたら 5 時半、急いで用意をして、登山口に移動、登山口駐車場は 10 台位のスペースはあったがほぼ満杯、何とか駐車して出発。

登山道をしばらく歩き、2 度目の渡渉点が北沢本谷の入渓点である。



今日は朝から夏のような気候で全く寒くなく、みずもぬるい。

最初の特徴的な二状滝は初っ端にしては見ごたえの或る滝だ。左のくぼみ状を登る。ゴーロを歩いていると茶色い苔というか滑りが目立ち結構滑る。水温が高いうえに水量も少ない感じだ。七つ小屋沢が会う三俣までは楽しい小滝登りが続くが、磨かれた丸っこい岩になかなか体が慣れない。三俣に到着。ここで景色が開ける。七つ小屋滝はなかなかの迫力。本谷の滝も本筋は登れない。この時期なら本来は残雪もあるのだろうが、かけらもない。水が冷たくないはずだ。大滝は右のリッジを1ピッチ登り、スラブ岩の上の灌木帯を水流方向にトラバース、30メートルギリギリで沢斜面の手前まで、そこから6、7メートルの懸垂で沢に降りられた。沢はまた狭くなり、小滝は続き2段チムニー滝 20メートルは水流の中を水をちょっと浴びながら登った。三俣に到着。ここで景色が開ける。七つ小屋滝はなかなかの迫力。本谷の滝も本筋は登れない。

この時期なら本来は残雪もあるのだろうが、かけらもない。水が冷たくないはずだ。大滝は右のリッジを1ピッチ登り、スラブ岩の上の灌木帯を水流方向にトラバース、30メートルギリギリで沢斜面の手前まで、そこから6、7メートルの懸垂で沢に降りられた。沢はまた狭くなり、小滝は続き2段チムニー滝 20メートルは水流の中を水をちょっと浴びながら登った。

上部はスラブが現れ乾いているのでそう悪くもない。最後のほうの二俣を左にとり藪を少し漕ぐくらいで景色が開け、コルを目指して上がっていくと、稜線に登山者の姿がもうすぐそこに確認できた。意外とすんなり登山道に到着、ピークもついでに踏むことにして、空荷でピストン。東洋のマッターホルン？大源太山は思い描いていたような岩山ではなかった。

下山後岩の湯(400円)に入り、帰りの高速はガラガラで渋滞なく帰宅できた。

